

まわりの話題

※広報紙に「あなた」の写真が写って
いましたらご連絡ください。
写真をさしあげます。
(総務課 TEL45-9109)



▲貝塚公園付近の上空を舞うコウノトリ



6羽様でお越しです (10/11)

国の天然記念物に指定されているコウノトリが若狭町に飛来しました。

この日、住民の方からの連絡を受け、付近を探したところ鳥浜から向笠へ向かう県道に6羽いるのが確認できました。

コウノトリに詳しい三宅小学校の高橋繁応校長は「4羽は飛来したことがあるが、6羽同時は初めてでは」と飛来を喜んでいました。

コウノトリは、幸せや赤ちゃんを運ぶ鳥ともいわれていますので、6羽も同時に訪れた若狭町に幸せがあることを願います。



万ーに備えて (10/13、10/28)

町と自衛隊が連携した合同防災訓練が上中庁舎周辺で行われました。

訓練は、嶺南地方で大地震が発生したことを想定し、災害対策本部の設置訓練や給水訓練、また町の要請を受けた自衛隊による指揮所設置訓練など、各防災関係機関が協力して、防災意識や防災能力を高める目的で行われました。

訓練のほかにも、陸上自衛隊第14普通科連隊の榎木良彦副連隊長による防災講演会が歴史文化館で行われ、榎木副連隊長は、「知識や技術を持っている人と普段から連携することで、現場でスムーズな活動ができる」と、普段から各機関が連携することの大切さを参加者に呼びかけました。

防災訓練は、28日にもB & G海洋センターと瓜生小学校を会場に行われ、防災関係機関の出勤訓練をはじめ、近隣住民も参加した避難訓練や救急救命訓練、日赤奉仕団による炊き出し訓練などが行われました。



▲東日本大震災の被災地での活動について講演する榎木副連隊長 (10/13)



▲現地の状況把握訓練を終え、ヘリコプターから降機する森下町長ら (10/13)



▲自衛隊が会場に設置した仮設の入浴設備「尾張の湯」 (10/13)



▲消防団員に三角巾の使い方をお教わりの参加者ら (10/28)



▲特別救助隊員による事故車両からの救出訓練 (10/28)



恋を大捜査 (10/13)

婚活イベントが若狭町で行われ、町内外の男女40人が参加しました。

このイベントは、わかさ東商工会青年部と若狭町次世代定住促進協議会が企画したもので、「恋の大捜査線 婚活編」と題して行われました。

イベントでは、恋人の聖地に認定されているレインボーライン山頂公園でグループ対抗のゲームなどが行われ、最初は緊張していた参加者同士も距離を縮めて楽しそうな笑い声が聞こえました。

その後、ショッピングセンターレピアで懇親会が行われ、新鮮な地魚や若狭すっぽんスープの振る舞いに参加者は喜びの声を上げていました。

今回のイベントでは、7組のカップルが成立したようです。



▲山頂公園からの景色を眺めて歩く参加者



熱闘!ピンポン (10/14)

第7回若狭町子ども会卓球大会が上中体育館で行われました。

この大会は、卓球を通じてスポーツの楽しさを味わうだけでなく、町内の子どもたちの交流を深める大会として開催されています。

大会には、団体の部に81チーム、個人の部に95人が出場し、打ち合うリズムミカルな音と選手への大きな声援が会場内に響いていました。

団体の部

男子の部 優勝：RH 2 (若葉・脇袋)

女子の部 優勝：玉置A

個人の部

男子の部 優勝：小川 拓さん (若葉)

女子の部 優勝：河原華乃さん (天徳寺)



▲熱戦を繰り広げる選手ら



火点は前方の標的! (10/14)

第26回若狭町自衛消防隊三方地域操法指導大会が三方消防署で行われました。

この大会は、ひとりでも多くの方に消防操法技術を学んでもらい、万一の場合に、迅速な初期消火活動に取り組んでもらおうと若狭町自衛消防隊三方地域連絡協議会が毎年開催しているものです。

大会には、三方地域の集落から10チーム、また事業所からも10チームの消防隊が出場し、日頃の初期消火技術訓練の成果を競い合いました。

選手らは、火点へ真っすぐにホースを伸ばし、設置された的に向かって放水し、迅速な消火活動を披露していました。



▲的に向かって放水する選手



◀林道を走るランナーら



▶食見海岸にゴールしたランナー



山の中を走ろう (10/14)

若狭路トレイルラン 2012 が行われました。トレイルランとは、登山道や林道など舗装されていない道を走るスポーツです。

この大会は、有限会社湖上館「自然に大の字あそぼーや」が企画・運営したもので、今回が初めての開催となります。

大会では、向笠から食見海岸までの約 25km と約 15km の 2 つのコースが設定され、全国から 333 人のランナーがエントリーし、若狭町の山々を颯爽と駆け抜けました。

ロングの部を 2 位でゴールした鈴木大樹さん(愛知県)は、「思ったよりもつらかった。いろんな大会に出場しているが、途中で海が見えるコースは初めて」と、若狭町の景色を絶賛していました。



言葉で伝える一行詩 (10/15)

若狭町が募集した一行詩コンクールの最終審査がパレオ若狭で行われ、以下の入賞作品が発表されました。

コンクールには、「人と人がつながる一行詩」と「認知症一行詩」の 2 部門があり、全国から 2,538 通(人と人がつながる一行詩 1,555 通、認知症一行詩 983 通)が応募されました。

この日、一次審査、二次審査を通過した入賞作品から、各部門の最優秀賞と優秀賞が審査員から発表されました。

最優秀賞と優秀賞の作品については、11月17日に行われたハート&アートフェスタで、詩の朗読と表彰が行われました。

なお、入賞作品をまとめた冊子が来春に発行される予定です。



▲入賞作品発表に出席した審査委員
(左から川上委員、長谷委員、大熊委員、岡崎委員)

部門	最優秀賞作品	氏名	住所
人と人がつながる一行詩	小学生 ふうりんの音でふっと みんなが耳をすます なつの盆のお昼ごはん	竹中 凜太郎	若狭町
	中学生 校長先生は「しずおちゃん」 町長さんは「ゆうちゃん」 ばあちゃん みんなの大先ぱいやね	島津 若菜	若狭町
	一般 学校帰りの私を待っていた隣のおばあちゃん 「太い足やなあ」毎日言った 50年余り経て ほめ言葉と知りました	井上 弘子	若狭町
認知症一行詩	小学生 歩けないはずのひいばあちゃん 「実家に帰る」と目をかがやかせて歩いてた	東 奨叡	若狭町
	中学生 冷蔵庫に ぞうりを入れるおばあちゃん クールビズだね	齋藤 大地	若狭町
	一般 「違うでしょ」を「そうだね」に変えたら 急に穏やかになった 今までごめんね	村山 栄子	三重県

(敬称省略)



省エネは我慢せず賢く使う (10/19)



▲校舎の明るい場所について話し合う生徒ら

エネルギー環境学習が三方中学校で行われ、同校の1年生73人が、光環境について学びました。

授業は、「光環境を考えよう」と題し、照明の適切な使い方を学び、省エネに関心を持ってもらおうと開かれたものです。

講師には、同校を設計した東畑建築事務所の技師らを迎え、照明の使い方を学んだり、生徒らがなぜその場所が明るいかなどを調べました。

講師からは、「学校で使うエネルギーの4分の3が照明。不要なものを消すことで省エネできる。しかし、我慢しすぎると勉強の効率が悪くなるので、我慢せず賢く使うことが大切」と、光の上手な使い方について話していました。



交通ルールを守ろう (10/25)

わかば保育園の祖父母参観日に交通安全教室が開かれました。

教室には、町内の催しなどで活躍する笑福一座のメンバーが訪れ、園児や保護者の方に交通ルールの大切さと防犯意識の向上を訴えかけました。

笑福一座のメンバーは、替え歌やユーモアあふれる寸劇を披露し、園児らも一緒になって歌うなど楽しそうに交通ルールを学びました。

今年に入ってから交通死亡事故が多発しており、若狭町では非常事態宣言を発令しています。「自分は大丈夫」や「車が避けてくれるだろう」と簡単に判断せず、ドライバーや歩行者の一人ひとりが注意し、みんなで交通事故防止に努めましょう。



▲寸劇などを披露する笑福一座のメンバーら



児童生徒たちの善意 (10/25)

岬小学校と三方中学校岬分校の児童生徒たちが日本赤十字社へ寄付をしてくれました。

この寄付金は、10月7日に行われた熊川いっぴく時代村で、児童生徒たちが手作りした夕ご飯とアジの干物を販売した売上金の一部です。

同校で行われた贈呈式では、中学3年生の松本詩生さんから日本赤十字社福井県支部若狭町分区分長を務める森下町長に寄付金が手渡されました。

夕ご飯を手作りして販売した中学3年生の蛭子谷柚歌さんは、「今回の販売を通じて、頑張ると自然に笑顔で接することができ、うれしい気持ちになることを知った」と話していました。



▲寄付金の目録を読み上げる松本詩生さん



温泉も試合も熱く (10/27 ~ 10/28)



▲熱戦を繰り広げる選手たち

みかた温泉杯争奪若狭学童野球交流大会が三方グラウンドなど4会場で行われました。

大会には、県内外から18チーム約400人が参加し、町内からも三方レイカーズと上中JBCの2チームが参加し、それぞれ熱戦を繰り広げました。

地元の三方レイカーズは、金沢東部クラブ(石川県)に準決勝で延長戦の末6対6と引き分けましたが、同点ルールジャンケンにより破れ、惜しくも決勝戦進出はなりませんでした。

優勝は、三方レイカーズを準決勝で破った金沢東部クラブが栄冠の温泉杯を手に入れました。

また、参加した選手らは、それぞれ町内の民宿に宿泊して若狭の海の幸を堪能したようです。



若狭の秋はおいしいぞ (10/28)

いいふぐ&アオリイカ祭りがレインボーラインの第一駐車場で行われました。

この催しは、三方五湖広域観光協議会事務局が美浜町と若狭町のイチオシの秋の食材である若狭フグとアオリイカを使って、両町にまたがるレインボーラインでPRしようかと企画したもので、今年初めて行われました。

当日は、ふぐ汁とイカ焼きのおいしそうな良い香りが会場内に漂うと、テント前には大勢の観光客が長い列を作り、あっという間に品切れとなりました。

また会場では、両町の特産品が販売されたほか、ゆるキャラや若狭町の語り部の方が、訪れた観光客を楽しませてくれました。



▲ふぐ汁とイカ焼きのテントに並ぶ大勢の観光客



僕たちもまちづくりに参加 (11/2)

まちの将来を担う子どもたちに、自分たちが住むまちの行政について関心をもってもらおうと子ども議会が行われました。

この取り組みは、三方五湖青年会議所が企画したもので、三方中学校2年生の生徒26人が議会に参加し、うち代表の5人が議長や議員として、森下町長に対して質問や提言を行いました。

議員として参加した森下大海さんは、「ラムサール条約湿地に登録されている三方五湖をどう守っていくのか。町の観光業と結びつけて県外にもPRしてはどうか」と、大人顔負けの質問や提言をしていました。



▲議員として質問や提言をする生徒

平成 24 年度

町功勞者表彰

町の福祉や産業、自治などでまちづくりに尽力された方々が、11月3日に観光ホテル水月花で若狭町功勞者表彰を受けました。

今年度の受賞者は10人です。(年齢順に掲載)

文化功勞



平尾 希典さん
(熊川・80歳)

若狭町文化財保護審議会委員9期、若狭町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員2期、熊川宿伝統芸能保存会会長、旧上中町民生児童委員

自治功勞



江戸 道男さん
(横渡・77歳)

行政相談委員(現職)、福井県行政相談委員協議会理事(現職)

福祉功勞



岩崎 英二さん
(別庄・76歳)

若狭町人権教育推進協議会会長、同委員(現職)、保護司

産業功勞



兼松 勉さん
(無悪・73歳)

旧上中町農業委員会委員、若狭町農業委員会委員、若狭鳥羽土地改良区理事長、同理事2期

福祉功勞



呉林 美徳さん
(向笠・72歳)

民生児童委員2期、人権擁護委員、若狭町社会福祉協議会副会長(現職)、同理事

産業功勞



玉井 健次さん
(三宅・72歳)

旧上中町農業委員会委員、若狭町農業委員会委員、若狭町認定農業者協議会会長、若狭町遺族連合会三宅地区会長

自治功勞



上田 正巳さん
(若葉・72歳)

若葉区自治会発足役員、瓜生地区区長会長、瓜生地区老人クラブ支部長、若狭町老人クラブ副会長(現職)

教育功勞



百田 吉江さん
(藤井・71歳)

旧三方町教育委員会委員、若狭町教育委員会委員、若狭町文化財保護審議会委員(現職)、のこすことば文学賞実行委員、同審査委員、認知症一行詩実行委員、同審査委員長、同編集委員、若狭町一行詩実行委員、同審査委員(現職)

自治・福祉功勞



原 千津子さん
(梅ヶ原・71歳)

旧三方町選挙管理委員会委員、若狭町選挙管理委員会委員、若狭地区婦人福祉協議会代表結婚相談員(現職)、若狭地区婦人福祉協議会会長、人権擁護委員、のこすことば文学賞実行委員

福祉功勞



田中 多磨子さん
(日笠・70歳)

旧上中町民生児童委員3期

「備えあれば憂いなし～防災訓練より～」

10月13日と28日の2回にわたり防災訓練を実施させていただきました。

13日の防災訓練は、嶺南地方の中心であり交通の要所でもある上中庁舎周辺で、大規模災害を想定した自衛隊の訓練を初めて実施いたしました。

当日、若狭町上空を飛ぶ自衛隊のヘリコプターの姿目にされた方もおられることと思います。また、実際の災害現場に自衛隊が設置する指揮所や東日本大震災でも使用した野外炊事設備、医療関係車両なども見せていただくことができ、大変有意義な訓練となりました。

その後、実際に東日本大震災の救助活動に参加された自衛隊幹部の方による講演会も

開催させていただき、貴重な体験談をお話いただきました。

講演会に参加された住民の方からも、「大変良いお話が聞けてよかった」と感謝のお声もいただきました。

28日には三十三地区、瓜生地区を中心に消防防災訓練を実施させていただきました。

両日とも休日の早朝にもかかわらず、多くの住民の皆さんにご参加、ご協力いただきありがとうございました。

9月1日の防災の日に第4回歴史環境講座の一環として開催された、宮城県東松島市の奥松島縄文村歴史資料館菅原館長の講演会では、被災された当日から現在までの体験談をお話いただきました。

津波により孤立した漁村の

皆さんとともに、何もない避難所での生活の始まりから、復興計画の作成に至るまで、大きな力となったのは、そこに暮らす住民の皆さんのパワー以外の何物でもなかったということです。普段の地域の暮らしの中で築かれた役割分担のシステムが避難所生活でも見事な力を発揮し、どの地域よりも早く復興に向けて動き出すことができたということでした。

災害に強い町とはそこに住む人々のつながりの強さだと改めて認識するとともに、若狭町にもしっかりと根付いている住民相互の絆を絶やすことなく、より一層強固なものにしなければならぬと思いを新たにいたしました。

広報クイズ

しりとり
うずまき
クイズ



携帯でアクセス
メールでも応募してネ

■応募方法■

キーワードを解いて、しりとりをしながら右回りにことばを入れてください。7つあるオレンジのマスのあるアルファベット順に並びかえると、答えになります。ハガキに答えと広報紙の感想や意見、住所、氏名を書いて、「〒919-1393 若狭町総務課」（住所は省略可）まで送ってください。電子メールでも受け付けます (soumu@town.fukui-wakasa.lg.jp)。正解者の中から抽選で5人に図書カードをプレゼントします。当選の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

締切 12月17日(月) 必着。

◇キーワード◇

- ①いよいよ最終回。2012年の大河ドラマのタイトルは何だった？
- ②外国の学問や芸術・技術などを学ぶために、長期間にわたって海外に留まり勉強すること。
- ③唇に塗る化粧品です。フランス語で「ルージュ」と呼ばれます。
- ④若狭湾も面している日本列島とアジア大陸に位置する海の名前。
- ⑤「夕方の」や「晩の」を表す英語と言えは？
- ⑥慣用句です。「一言も反論や弁解ができない時には何が出ない？」
「OOOOも出ない」
- ⑦一年の終わりから翌年の年頭の期間を総称して何と言う？
- ⑧若狭町は町役場ですが、敦賀市や小浜市などは何と言う？

【ヒント】

若狭町で生産される伝統野菜で、ひげ根が特徴です。主に味噌汁の具や漬け物として使われます。

《答え》 OOOOOOO

①		G			
F			⑥		
⑤	⑧	A			②
E				⑦	
			B		C
	④		D	③	

●前回の答え「アヲリカ」 ①オチキマキ ②キンカウ ③ウチムラコウイ ④イヌモアルカ ⑤ハカス ⑥スイゼン ⑦キコ ⑧コト時

HAPPY BIRTHDAY



Merry X'mas

このコーナーでは、12月に3歳を迎える町内にお住まいのお子さまに登場していただいています。なお、ご応募いただいた方のみ掲載しています。今回は平成21年12月生まれの3歳になるお子さまです。

3歳です

絆・クイズ
3歳・ニッセ



◀ 中川 真仁くん

12月6日生まれ（横渡）

親：順之・玲子さん

はたらく車とトーマスが大好きだよ。



◀ 塚本 さより 咲依ちゃん

12月16日生まれ（玉置）

親：真也・由佳さん

家族の中ではいちばん強いぞあ♡

次回は平成22年1月生まれのお子さまが対象です。写真と25字以内のコメント、生年月日、ご両親のお名前、連絡先を添えて総務課または上中サービス室へ提出してください（メールでの送付も可）。

12月5日（水）必着です。

●問い合わせ 総務課 TEL 45-9109
電子メール
soumu@town.fukui-wakasa.lg.jp
(受信確認のため、必ずお電話ください)

文芸ひろば

冠句
若狭町冠句の友
命綱愛の絆で来た人生
荒ぶ海敢て羅針は北の漁場
吉村ちどり（三生野）
小堀ふみ子（鳥浜）

川柳
ほっと川柳
煮え上手趣味も仲間も多彩です
口喧嘩煮ても焼いても崩れない
清水 博江（鳥浜）
大野 文子（井崎）
前田 初美（三宅）
新田 恭子（玉置）

短歌
川柳湖畔
揺れうごくポストにぼとり遠い人
遠近のメガネで覗く新世間
原発の危機を感じる水晶浜に
浜風清し砂に字を書く
浮き雲は目には見えねど少しづつ
動いているらし窓枠すすむ
井上 弘子（下夕中）
玉井 富枝（三宅）

俳句
かそり歌会
濃むらさきの小粒びつしり細き枝を
撓らすその名はむらさき式部
秋空に浮く白雲に母が子の
手を引くに似し一群のあり
中村りゑ子（気山）
大崎 常子（気山）
乙花俳句会
語らひに一瞬の黙稲光
秋の風大きな耳の達磨の絵
山崎 郁子（上黒田）
出口 綾（小原）
若王子土筆句会
ひと雨に安らぐ畑や初ちちろ
寺多き若狭の秋陽けがれなし
中村よ志江（若王子）
中村 淳子（若王子）